

様式（評価機構フォーマット版）

2024年度 自己評価報告書

（専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版）

2025年4月1日

トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校

目 次

| | | | |
|---------------------------------|----|------------------------------|----|
| 教育目標と本年度の重点目標の評価 | 1 | 5-16 就職等進路..... | 23 |
| 基準 1 教育理念・目的・育成人材像 | 2 | 5-17 中途退学への対応..... | 24 |
| 1-1 理念・目的・育成人材像..... | 3 | 5-18 学生相談..... | 25 |
| 基準 2 学校運営 | 4 | 5-19 学生生活..... | 26 |
| 2-2 運営方針..... | 5 | 5-20 保護者との連携..... | 28 |
| 2-3 事業計画..... | 6 | 5-21 卒業生・社会人..... | 29 |
| 2-4 運営組織..... | 7 | 基準 6 教育環境 | 30 |
| 2-5 人事・給与制度..... | 8 | 6-22 施設・設備等..... | 31 |
| 2-6 意思決定システム..... | 9 | 6-23 学外実習、インターンシップ等..... | 32 |
| 2-7 情報システム..... | 10 | 6-24 防災・安全管理..... | 33 |
| 基準 3 教育活動 | 11 | 基準 7 学生の募集と受入れ | 34 |
| 3-8 目標の設定..... | 12 | 7-25 学生募集活動は、適正に行われているか..... | 35 |
| 3-9 教育方法・評価等..... | 13 | 7-26 入学選考..... | 36 |
| 3-10 成績評価・単位認定等..... | 14 | 7-27 学納金..... | 37 |
| 3-11 資格・免許の取得の指導体制..... | 15 | 基準 8 財務 | 38 |
| 3-12 教員・教員組織..... | 16 | 8-28 財務基盤..... | 39 |
| 基準 4 学修成果 | 18 | 8-29 予算・収支計画..... | 40 |
| 4-13 就職率..... | 19 | 8-30 監査..... | 41 |
| 4-14 資格・免許の取得率..... | 20 | 8-31 財務情報の公開..... | 42 |
| 4-15 卒業生の社会的評価..... | 21 | 基準 9 法令等の遵守 | 43 |
| 基準 5 学生支援 | 22 | 9-32 関係法令、設置基準等の遵守..... | 44 |
| | | 9-33 個人情報保護..... | 45 |
| | | 9-34 学校評価..... | 46 |
| | | 9-35 教育情報の公開..... | 47 |

| | | |
|--------------|------------------|-----------|
| 基準 10 | 社会貢献・地域貢献 | 48 |
| 10-36 | 社会貢献・地域貢献 | 49 |
| 10-37 | ボランティア活動 | 50 |

教育目標と本年度の重点目標の評価

| 学校の教育理念・目標 | 2024年度重点目標 | 重点目標・計画の達成状況 | 課題と解決方策 |
|---|--|---|---|
| <p>トリニティカレッジでは、医療福祉の原点である愛と奉仕の精神を基本として、少子高齢化社会において求められる医療・福祉・保健に貢献できる人材の育成を目指している。</p> <p>また、日本語学科は、日本の高等教育機関（大学・専門学校等）に入学を希望する外国人留学生に対して、日本語教育及び高等教育を受けるために必要な基礎科目の教育を行い、併せて国際交流・国際社会に貢献する人材を育成することを目指している。</p> <p><ディプロマ・ポリシー></p> <p>本校では、学則で定める修業年限以上在籍し、各学科所定の単位を修得するとともに、教育理念に基づいた以下のような力を身につけた者に対して、卒業を認定する。また、本校設置の課程のうち修業年限が2年以上かつ総授業時数1,700時間以上の学科を修了した者には、その課程の専門士の称号を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) それぞれの分野で生かせる実践的な知識と技術を有し現場で活用することができる。 2) 問題解決の為に主体体に取り組み、自ら考え判断し、それを表現することができる。 3) マネジメント能力と、良好な連携・協力関係を作り上げ専門性を生かす力を身につけている。 4) 自己の社会的使命を認識し、地域社会・国際社会に貢献しようとする意欲を持っている。 5) 人間尊重の精神と倫理性をもち多様な人々への適切な配慮ができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 職業実践専門課程の認定校であることを踏まえ、実践的な職業教育を通して専門的知識を身につけた人材を育成するため、次の目標値を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート 3.50 以上または前年度の数値以上 ・学科が設定する資格の取得率 100%または前年度の数値以上 ・学生アンケート「定期試験や検定試験などの合格に向けて、自分で勉強している。」 3.50 以上または前年度の数値以上 2. 社会的・職業的自立に必要な能力や態度を身につけるため、次の目標値を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・SHR 欠席率 1.00 人/日未満 3. 経費削減を図る取り組みを教職員全員で共有する。 4. ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく学科目標について、客観的数字で振り返りを行う。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業アンケート結果は平均評価 3.81 (3.50) で、目標を達成した。学科が設定する試験の資格取得率は、介護福祉士：90% (100%)、保育士・幼稚園教諭 100% (100%) となった。また、学生アンケートでは自主的に自己学習を行っている学生は 3.60 (3.50) で目標を達成した。 () 内は昨年度 2. SHR 欠席率は 0.31 人/日 (0.41 人/日) で目標を達成した。 () 内は昨年度 3. 経費削減の進捗状況を把握し削減することができた。 4. ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく学科目標について、客観的数字も用いて振り返りを行うことができた。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 資格の取得率が目標に達しなかった学科は、具体的な改善策を立て目標を達成するよう取り組む。自己学習の評価が目標に達しなかったクラスは、学科において具体的な対応策を立て計画的に実行する。 2. クラスによっては一時的に数値が上昇することもあるため、引き続き指導する。 3. 引き続き経費削減を図る取り組みを教職員全員で共有する。 4. 次年度は学科目標立案時から達成を目指す数字を盛り込み、取り組みや振り返りの様子をより客観的に示す。 |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|
| <p>本校は、少子高齢化社会、医療の高度化・専門化という社会状況をふまえ、愛と奉仕の精神に加え、医療・福祉・保健の現場で活かせる実践力を兼ね備えた人材の育成に努めている。また、国際的な視点に立ち、医療と福祉の発展と創造並びに国際交流の増進に貢献、寄与することを目的としている。</p> <p>教育理念・目的・全体のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に加え、学科ごとのカリキュラム・ポリシーを作成することで育成すべき人物像がより具体的になった。</p> <p>学科ごとに実践力を重視した人材を養成するため、教育課程編成委員会を年 2 回開催し、現場のニーズに合ったカリキュラムの編成を行っている。</p> | <ul style="list-style-type: none">・本校が設置する 3 学科「介護福祉学科」、「こども保育学科」、「日本語学科」のうち、「介護福祉学科」「こども保育学科」は文部科学省により職業実践専門課程の認定を受けている。「日本語学科」は日本語教育機関として認定を受けるために必要な準備を引き続き進めていく。・年 2 回の教育課程編成委員会により社会のニーズを知ることで、現場で活かせる実践力を備えた人材の育成に努めている。 |

| | | | |
|--------|-----------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025 年 3 月 31 日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|-----------------|-------|-------|

1-1 理念・目的・育成人材像

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--|---|---|--|-----------------------------------|
| 1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか | 愛と奉仕の精神を基本とした理念・目的・育成人材像を明確に定めることは重要である。 | ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーのつながりを明らかにすることで、育成すべき人物像がより具体的になった。 | 年度初めのオリエンテーション以外でも学生に周知し、学校行事や日頃の指導の中でも活用する。 | 学校ホームページ 学生便覧 学則第1条 |
| 1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか | 学科ごとに関連する業界等の人材ニーズを踏まえ、育成人材像の見直し、教育課程・授業計画の改善を行うことが重要である。 | 教育課程編成委員会を年2回実施する。各業界の専門家である委員の方から、最新の業界情報を知るとともに委員の意見を参考に教育課程の改善を行う。 | 議事録の通り。 | 教育課程編成委員会資料および議事録 |
| 1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか | 学科ごとに実践力を重視した特色ある教育課程と授業内容を構成していく。 | 教育課程編成委員の意見を参考に教育課程・授業内容の改善を行う。 | 特になし | 教育課程及び授業時間数 授業計画書（シラバス） |
| 1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか | 社会のニーズを踏まえ各学科のカリキュラムを柔軟に変更することは重要である。 | 教育課程編成委員の意見に加え、学外実習の実習指導者との意見交換により社会のニーズに対応するよう努めている。 | 学外実習の実習指導者との意見交換を行った。 | 教育課程編成委員会資料および議事録 実習指導者連絡会議議事録 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|
| ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づく学科目標を設定することで、育成すべき人物像がより具体的になった。また、学科ごとに実践力を重視した特色あるカリキュラムを編成しており、教育課程編成委員会での助言をふまえ、柔軟に対応している。 | <ul style="list-style-type: none"> 本校が設置する3学科「介護福祉学科」、「こども保育学科」、「日本語学科」のうち、「介護福祉学科」「こども保育学科」は文部科学省により職業実践専門課程の認定を受けている 教育課程編成委員会は社会のニーズを知ること、現場で活かせる実践力を備えた人材の育成に努めている。 |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

基準 2 学校運営

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|
| <p>教育理念・教育目標等をふまえて学園理事会、評議員会において承認された事業計画、予算に基づき運営している。</p> <p>事業計画については、毎年、前年度の反省点・改善点をふまえて事業計画書を作成し、理事会・評議員会にて承認を得ている。</p> <p>運営組織については、寄付行為に基づき、理事会及び評議員会を設置し適正な運営を行っている。また、組織図及び校務分掌を作成し、役割分担を明確にしている。運営会議・学科長会議は必要に応じて随時開催している。</p> <p>人事・給与制度については、就業規則、給与規定を定め、学校運営に必要な人材を適切に配置するなど規定に基づいて運用している。</p> <p>意思決定のルールとして、案件により各部署・委員会で決定するもの、運営会議や教職員会議で決定するもの、理事会・評議員会で決議するもの等に分けて対応している。</p> <p>業務の効率化を図るため、教職員全員が専用の PC を利用している。また学内のネットワーク化、学籍管理システム・会計管理システムの導入により業務は効率化されている。費用対効果を考慮しながら更なる業務の効率化を図っていく。</p> | <p>働き方改革やハラスメント防止に関わる諸規定の見直し、SNS 活用における諸規定の策定が課題となっている。</p> |

| | | | |
|--------|-----------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025 年 3 月 31 日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|-----------------|-------|-------|

2-2 運営方針

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|-------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|--------------------|
| 2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか | 学園理事会、評議員会において承認された事業計画、予算に基づき運営する。 | 毎年度、理事会等において理念に沿った事業計画、予算を決定している。 | 予算と実績の状況を定期的に企画会議、運営会議にて報告していく。 | 事業計画書 予算進捗状況報告書 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 教育理念・教育目標等をふまえ学園理事会、評議員会において承認された事業計画、予算に基づき運営している。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

2-3 事業計画

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|------------------------------|----------------------|---|-------------|-----------|
| 2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか | 学校の教育理念に基づき事業計画を定める。 | 前年度の反省点・改善点をふまえ事業計画書を作成し、理事会・評議員会にて承認を得ている。 | 中長期計画を策定する。 | 事業計画書 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 毎年度、前年度の反省点・改善点をふまえ事業計画書を作成し、理事会・評議員会にて承認を得ている。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

2-4 運営組織

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------|---|--|-----------|------------------------|
| 2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか | 寄附行為に基づき、理事会及び評議委員会を設置し、適正な運営を行う。 | 理事会・評議委員会を定期的で開催し、議事録を作成している。 | 特になし | 寄附行為 組織規程 理事会議事録 |
| 2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか | 組織図及び校務分掌により各部門の役割分担や各種委員会を組織し、学校運営を行う。 | 組織図及び校務分掌を作成し、役割分担を明確にしている。運営会議・学科長会議は必要に応じて随時開催している。広報募集委員会は定期的で開催し、入学生の増加を図る。日本語学科留学生の増加に伴い、留学生生活指導系の活動を本格化する。 | 特になし | 組織規程 校務分掌 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 寄附行為に基づき、理事会及び評議委員会を設置し適正な運営を行っている。また、組織図及び校務分掌を作成し、役割分担を明確にしている。運営会議・学科長会議は必要に応じて随時開催している。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

2-5 人事・給与制度

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------|---------------------|-----------------------------------|-----------|--------------|
| 2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか | 就業規則、給与規定を定め整備している。 | 学校運営に必要な人員を適切に配置し、給与規定に基づき支給している。 | 特になし | 就業規則 給与規定 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 就業規則、給与規定を定め、学校運営に必要な人材を適切に配置するなど規定に基づいて運用している。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

2-6 意思決定システム

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|------------------------|------------------|--|-----------|-----------|
| 2-6-1 意思決定システムを整備しているか | 組織規程に基づき意思決定を行う。 | 案件により各部署・委員会で決定するもの、運営会議で議論し教職員会議で決定するもの、理事会・評議員会で決議するもの等に分けて対応している。 | 特になし | 組織規程 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 案件により各部署・委員会で決定するもの、運営会議や教職員会議で決定するもの、理事会・評議員会で決議するもの等に分けて対応している。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

2-7 情報システム

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|-------------------------------------|---|---|--------------------------------------|---------------------|
| 2-7-1 情報システム化 に取組み、業務の効率化を図っているか | 学内のネットワーク構築により、情報の共有による業務の迅速化、効率化を図る。教務および事務に関連するシステムの導入により業務の効率化を図る。 | 教職員一人一人に PC を配備している。 学内ネットワーク化により、情報の共有、業務の迅速化・効率化が図られている。 学籍管理システムにより学生情報、成績等を一元管理している。 Teams の導入により情報の共有及び遠隔授業への対応を可能とした。 会計管理システムの導入により業務を効率的に行っている。 年度途中より勤怠管理システムを導入し、更なる効率化を図っている。 | IT 活用を効率よく行い、さらに教職員の業務の効率化や情報共有を進める。 | PC 配置図 ネットワーク構成図 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 業務の効率化を図るため、教職員全員が専用の PC を利用している。また学内のネットワーク化、学籍管理システム・会計管理システムの導入により業務は効率化されている。Teams を利用した情報共有の促進やコロナの状況に応じて遠隔授業の実施を可能としている。費用対効果を考慮しながら更なる業務の効率化を図っていく。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

3-8 目標の設定

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|------------------------------------|--|--|-----------|---------------------------|
| 3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか | ディプロマ・ポリシーで定めた目標を達成するため、カリキュラム・ポリシーを定める。 | カリキュラム・ポリシーを作成し、カリキュラムの全体像と共に学生便覧において学生に周知している。 | 特になし | 学生便覧 学則 授業計画書（シラバス） |
| 3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか | 学科に応じた教育到達レベルを設定している。 | 各学科、教育到達レベル（国家試験や認定試験合格など）を設定している。また、科目ごとの到達目標を設定しシラバスに記載している。 | 特になし | 学則 授業計画書（シラバス） |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|
| ディプロマ・ポリシーで定めた目標を達成するため、カリキュラム・ポリシーに従い、教育課程を編成・実施し、より具体的な教育課程の編成方法を定めている。 教育到達レベルは、学科・科目ごとに設定し、各科目の到達目標はシラバスに記載している。 | 介護福祉学科は、国家試験に合格することで資格を得ることができるが、経過措置として不合格の場合でも、卒後 5 年間は介護福祉士とすることができる。この間に国家試験に合格するか、卒後 5 年間続けて介護等の業務に従事することで介護福祉士の登録が継続できる。 こども保育学科は、卒業と同時に保育士、幼稚園教諭 2 種の資格を取得できる。 日本語学科は、卒業後は日本国内の専門学校へ進学したり、修得した日本語能力を活かして日本国内で就職したりしている。 |

| | | | |
|--------|-----------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025 年 3 月 31 日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|-----------------|-------|-------|

3-9 教育方法・評価等

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|-------------------------------|---|---|--|-------------------------------|
| 3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか | ディプロマ・ポリシーで定めた目標を達成するため、カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を編成する。 | ディプロマ・ポリシーで定めた目標を達成するため、学科ごとにカリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を編成している。 | 特になし | 学生便覧 学則 授業計画書（シラバス） |
| 3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか | 学科ごとに関連する業界の専門家と意見交換を行い、教育課程に反映させる。 | 教育課程編成委員会において、各業界の専門家である委員から最新の業界情報を知るとともに委員の意見を参考に教育課程の改善を行っている。 | 議事録参照 | 教育課程編成委員会設置規程 教育課程編成委員会議事録 |
| 3-9-3 キャリア教育を実施しているか | 職業人として必要な知識・技術に加え、社会人としての基礎的能力を養うことは重要である。 | 実習前オリエンテーションや学外実習に加え、就職実務やマナー講座、コミュニケーション能力・国語力を高める授業を取り入れている。 | 社会のニーズ、学生の状況にあわせて教育内容を改善することが必要である。次年度は外部の就職ガイダンス等にも参加して一層のキャリア教育を進める。 | 該当科目の授業計画書（シラバス） |
| 3-9-4 授業評価を実施しているか | 学生による授業アンケートを実施し、授業内容の向上を図る。 | 年2回、学生による授業アンケートを実施し、その結果を教員にフィードバックしている。 | 特になし | 授業アンケート様式 授業アンケート結果 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--|
| ディプロマ・ポリシーを達成するため、学科ごとにカリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を編成している。また、現場で活かせる実践力を養成するため、教育課程編成委員等の外部の意見を取り入れている。キャリア教育については、学外実習、社会人として必要なマナーの向上等に力を入れている。授業アンケートによる授業評価を年2回実施している。 | 介護福祉学科の教育課程は、介護福祉士養成施設指定規則に則る。 こども保育学科は、保育士養成施設指定規則に則る。近畿大学九州短期大学の教育課程（近畿大学九州短期大学との併修のため）に則る。 日本語学科は、日本語教育機関告知基準に則る。 |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

3-10 成績評価・単位認定等

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|------------------------------------|---|--|--|---|
| 3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか | 成績評価基準は、学則・学生便覧・授業計画書に定め、適切に運用する。 | 成績評価は、学則に従い、科目ごとに評価方法・基準を定めている。また、進級・卒業判定会議にて進級および卒業の判定をしている。公平・公正な成績評価となるよう、学則に定める成績評価方法を原則としながらも、ケースごとの対応にバラつきが生じないよう、必要に応じて個別の検討会を開催している。 | 個別の検討会を通して出てきた課題に対応できるよう、教務関係確認事項を改定し、全教職員で一致した対応ができるようにする必要がある。 | 学則 学生便覧 授業計画書（シラバス） 卒業判定会議議事録 進級判定会議議事録 教務関係確認事項（教務内規） |
| 3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか | 実習報告会・事例検討発表会を通して学生の実習成果の把握、次年度以降の実習内容の改善を行う。 | 学科において実習終了後、実習報告会・事例検討発表会を実施している。学生の実習発表および実習報告会のしおり・事例検討発表会の冊子等で実習の成果を確認している。 | 1・2年生がともに成果を共有できるような場を設け、学年を超えた学びの場を設ける必要がある。 | 学科会議事録 実習報告会のしおり 事例検討発表会の冊子 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--|
| 成績評価は、学則に従い、科目ごとに評価方法・基準を定めている。進級・卒業判定会議を行い学校長の承認を得た後、進級および卒業を決定している。学外実習に関しては、実習報告会・事例検討発表会で実習の成果を確認している。 | 成績評価は、年 2 回、学生・保護者に通知している。成績の結果を踏まえて、保護者、留学生受入施設に対して学生への激励・指導をお願いしている。 |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

3-11 資格・免許の取得の指導体制

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------------------|---|--|--|------------------------------------|
| 3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか | 指定規則に則った教育課程を編成する。 | 指定規則で規定された教育課程に加え、資格試験対策用の授業を授業計画書で明確に示している。 | 特になし | 学則 授業計画書（シラバス） 授業実績表 教務日誌 |
| 3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか | 指定規則に則った教育課程に基づいて授業を実施する。必要に応じて補習を実施する。 | 教育課程で定められた授業科目による指導に加え、定期的には国家試験模擬試験・資格試験模擬試験を実施している。成績不振者に対しては、個別面談、放課後の居残り学習や補習等でフォローしている。 | 成績不振者に対しては、模擬試験結果等の客観的な分析を踏まえ、今まで以上のきめ細かなサポートが必要である。 | 授業実績表 教務日誌 各学科会議事録 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|
| 各学科とも目標となる資格取得のための教育課程が編成され、学則・授業計画書で明確に示されている。教育課程で定められた科目による指導以外にも、定期的に模擬試験を実施し、成績不振者に対しては個別面談、居残り学習、補習等でフォローをしている。 | 介護福祉学科の留学生に対しては、介護福祉士国家試験合格に向け、日本語能力試験 N2 取得が求められており、介護福祉学科と日本語学科で連携して指導にあたっている。 |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

3-12 教員・教員組織

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|----------------------------|--|---|-----------|--------------------|
| 3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか | 指定規則または対象学科の学生を指導するにふさわしい資格・技能を有する教員を確保する。 | 介護福祉学科およびこども保育学科は、指定規則で定められた教員要件を備えた教員を配置している。また、すべての学科において教育課程の1割以上を実務経験のある教員が指導にあたっている。 | 特になし | 履歴書 授業計画書（シラバス） |
| 3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか | 教職員研修規程を定め、教職員の能力・資質向上に取り組む。 | 島根専各主催の教職員研修会や専門分野における実務に関する研修等に積極的に参加し、教職員の能力・資質向上に努めている。また、情報共有のため、研修報告書および資料をデータ化し教職員が自由に閲覧できる状態にしている。 | 特になし | 教職員研修規程 研修報告書 |
| 3-12-3 教員の組織体制を整備しているか | 組織規程および校務運用規定において教員の組織体制を定め、教務と事務が円滑に運営するよう組織する。 | 定められた組織体制に従い、学校長が年度初めに校務分掌にて各教職員の役割を決定している。各係の教職員が責任を持って業務にあたることで学校全体が円滑に運営されている。 | 特になし | 学則 組織規程 校務分掌 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--|
| <p>各学科において教員資格・要件を備えた教員を配置している。また学外研修を通して、教員としての資質向上と各分野における専門的知識の向上に取り組んでいる。</p> <p>教員の組織体制は整備されており、年度当初に学校長が校務分掌を決定している。</p> | <p>本校の校務は総務部と教務部の2つがあり、教務部には学則により設置する3つの学科がある。</p> |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

基準 4 学修成果

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---------|------------|---------|------------|------|------------|-------|--|---------|------------|----------|------------|--------|------|---------|--------|---------|------|--|--------|
| <p>就職については、就職希望者の就職率 100%を目標としている。学生の就職活動状況を事前事後報告させて状況を把握している。また、クラスごとの内定率や内定先は就職活動報告書によって確認することができる。</p> <p>資格取得率の向上は重点目標の一つである。各学科が目標とする資格の取得率 100%を達成できるよう教育指導体制を整えている。成績不振者に対しては、個別面談、放課後の居残り学習や補習等でフォローするようにしている。今まで以上のきめ細かなサポートをするとともに、短期的な目標を設定し成功体験を積ませることで、自ら勉強することの喜びを感じてもらおうと導いていく。</p> <p>また、教育の成果を確認するため、卒業生の状況や社会的評価を把握することは重要である。学校に訪れる卒業生や同窓会・学会・コンテスト等に参加する卒業生から情報を収集し把握に努めているが、本格的な追跡調査は行っていない。今後、同窓会と連携することで追跡調査の実施を検討しており、同窓会との連携を図る第一歩として、コロナ禍で中断していた同窓会主催イベントを再開した。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・就職率（2025年3月31日現在）は次のとおりである。 <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">介護福祉学科</td> <td style="text-align: right;">100%（100%）</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">こども保育学科</td> <td style="text-align: right;">100%（100%）</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">（全体）</td> <td style="text-align: right;">100%（100%）</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">（ ）内の数値は昨年度のもの</p> ・進学率（2025年3月31日現在）は次のとおりである。 <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="padding-bottom: 5px;">日本語学科</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">介護進学コース</td> <td style="text-align: right;">100%（100%）</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">日本語進学コース</td> <td style="text-align: right;">100%（100%）</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">（ ）内の数値は昨年度のもの</p> ・各学科が目標とする資格の取得率は次のとおりである。 <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">介護福祉学科</td> <td style="text-align: right;">100%</td> <td style="padding-left: 10px;">合格率 90%</td> <td style="text-align: right;">（100%）</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">こども保育学科</td> <td style="text-align: right;">100%</td> <td></td> <td style="text-align: right;">（100%）</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">（ ）内の数値は昨年度のもの</p> | 介護福祉学科 | 100%（100%） | こども保育学科 | 100%（100%） | （全体） | 100%（100%） | 日本語学科 | | 介護進学コース | 100%（100%） | 日本語進学コース | 100%（100%） | 介護福祉学科 | 100% | 合格率 90% | （100%） | こども保育学科 | 100% | | （100%） |
| 介護福祉学科 | 100%（100%） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こども保育学科 | 100%（100%） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| （全体） | 100%（100%） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 日本語学科 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護進学コース | 100%（100%） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 日本語進学コース | 100%（100%） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護福祉学科 | 100% | 合格率 90% | （100%） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こども保育学科 | 100% | | （100%） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

4-13 就職率

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|-----------------------|-----------------------|--|---|-----------|
| 4-13-1 就職率の向上が図られているか | 就職希望者の就職率 100%を目標とする。 | 就職活動の事前事後報告をさせて状況を把握している。また、クラスごとの内定率や内定先は就職活動報告書によって確認することができる。 | 進路選択に悩む学生は就職活動の開始が遅くなる傾向にある。担任を主体として学校全体で情報を共有し、学生の進路指導にあたる必要がある。 | 就職活動報告書 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|---|
| 就職希望者の就職率 100%を目標としている。学生の就職状況を事前事後報告させて状況を把握している。また、クラスごとの内定率や内定先は就職活動報告書によって確認することができる。 | 就職活動した学生には、就職活動状況の把握・後輩への情報提供の目的で、就職活動報告書の提出を義務付けている。 |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

4-14 資格・免許の取得率

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|----------------------------|-----------------------------|--|--|-----------------|
| 4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか | 資格取得率 100%を目標とした教育指導体制を整える。 | 成績不振者に対しては、個別面談、放課後の居残り学習や補習等でフォローするようにしている。 | 成績不振者に対しては、模擬試験結果等の客観的な分析を踏まえ、今まで以上のきめ細かなサポートが必要である。 | 教務日誌 各学科会議事録 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|
| 資格取得率 100%を目標とした教育指導体制を整え実施している。成績不振者に対しては、個別面談、放課後の居残り学習や補習等でフォローするようにしている。成績不振者に対しては、模擬試験結果等の客観的な分析を踏まえ、今まで以上のきめ細かなサポートするとともに、短期的な目標を設定し成功体験を積ませることで、自ら勉強することの喜びを感じてもらおうよう導いていく。 | それぞれの学科で目標とする資格は次のとおりである。 介護福祉学科・・・介護福祉士：取得率 100%（合格率 90%） こども保育学科・・・保育士、幼稚園教諭 2 種：取得率 100% 日本語学科・・・日本語能力試験 N2 以上：合格率 7% |

| | | | |
|--------|-----------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025 年 3 月 31 日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|-----------------|-------|-------|

4-15 卒業生の社会的評価

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--------------------------|--|--|---|-----------|
| 4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか | 教育の成果を確認するため、同窓会と連携することで卒業生の状況や社会的評価を把握することは重要である。 | 学校に訪れる卒業生や同窓会に参加する卒業生から情報を収集し把握に努めている。また、学会やコンテスト等に参加する卒業生の状況は把握できている。今後、同窓会と連携することで追跡調査の実施を検討しており、同窓会との連携を図る第一歩として、コロナ禍で中断していた同窓会主催イベントを再開した。 | 卒業生の追跡調査を本格的に行ってはいない。同窓会総会が行われる機会を利用するなどして卒業生の状況をしっかりと把握・分析し、教育活動の改善につなげたい。 | 同窓会名簿 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 教育の成果を確認するため、同窓会と連携することで卒業生の状況や社会的評価を把握することは重要である。学校に訪れる卒業生や同窓会・学会・コンテスト等に参加する卒業生から情報を収集し把握に努めているが、本格的な追跡調査は行っていない。今後、追跡調査の実施を検討する。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

基準5 学生支援

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|---|
| <p>就職活動支援として、クラス担任が中心となり学生に対し必要な情報を提供し、学科全体で手厚い進路指導を行っている。また、社会人基礎力等の授業において、学生の就職へのモチベーションを高めるとともに面接指導・試験対策を行っている。</p> <p>学生に対する修学支援として学生相談体制を整備している。クラス担任が定期的に個人面談を実施するとともに、学生の様子に変化が見られれば随時面談を行っている。留学生に対しては、クラス担任・学科長による個別相談、日本語教員による日本語教育・相談を行い、少しでも不安が解消できるよう取り組んでいる。</p> <p>経済的支援として、学納金の延納・分納および各種奨学金制度の利用を促す。生活環境支援では、学校が提携する業者の学生マンションを紹介し、遠隔地からくる学生の快適な生活環境を確保している。</p> <p>心理的不安を抱える学生に対しては、学校独自のカウンセリングを実施。専門カウンセラーの相談支援を受けることで、学業へのサポート・医療機関との連携を図る体制を確保している。</p> <p>卒業生への支援としては、同窓会総会に出席する卒業生や個別に学校訪問してくれる卒業生に相談・支援を行っている。同窓会との関係をこれまで以上に密接にし、卒業生との連携を図っていきたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学生相談体制を整備し、定期面談・個別面談を行っている。スクールカウンセリングの稼働率は45%と前年に比べて低下したが、教職員のコンサルティング利用は増加している。学生個別の検査希望に応えたり、学生全体への予防教育を行ったりしており、専門カウンセラーからメンタルヘルスについての実効性のある講義を受けている。 ・木村学園奨学金は本校独自の奨学金制度である。（月 35,000 円貸与） |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

5-16 就職等進路

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--------------------------------|---|---|---|----------------------|
| 5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか | クラス担任が中心となり学生に対し必要な情報を提供し、学科全体で手厚い進路指導を行っている。 | 社会人基礎力等の授業において、学生の就職へのモチベーションを高めるとともに面接指導・試験対策を行っている。また、就職活動状況を管理共有し、個々の学生に対して的確なアドバイスをするなどきめ細かな支援を行っている。 | 進路選択に悩む学生は就職活動の開始が遅くなる傾向にある。担任を主体として学校全体で情報を共有し、学生の進路指導にあたる必要がある。 | 授業計画書（シラバス） 授業実績表 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| クラス担任が中心となり学生に対し必要な情報を提供し、学科全体で手厚い進路指導を行っている。さらに、社会人基礎力等の授業において、学生の就職へのモチベーションを高めるとともに面接指導・試験対策を行っている。また、就職活動状況を管理共有し、個々の学生に対して的確なアドバイスをするなどきめ細かな支援を行っている。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

5-17 中途退学への対応

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|-----------------------|--|--|---|--------------------------|
| 5-17-1 退学率の低減が図られているか | 退学率の目標値を次のとおりとする。 全体 5%以下 1年 6%以下 2年 4%以下 | 入学時・進級時に配慮を要す学生からの申し出を受け付け、学校長を中心に対応を検討している。 また、クラス担任、学科長を中心に問題のある学生に対して、面談・保護者との密な連携等を行い、学生それぞれの問題が解決できるよう努めている。今年度の退学率は次のとおりである。 全体 2.1% 1年 0% 2年 4.0% | 主な退学理由は、進路変更 67%、帰国 33%（留学生）であった。 留学生は在留資格上の諸規則を遵守する必要があり、引き続き適切な指導が求められる。 | 配慮を要す学生への対応一覧 退学率の推移表 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|
| 退学率の目標を達成するため、クラス担任、学科長を中心に問題のある学生に対して、面談・保護者との密な連携等により、学生それぞれの問題が解決できるよう努めている。 | 1年生の退学者が2年連続でゼロであり、クラス担任を中心とした学生支援体制が効果的に機能している。 |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

5-18 学生相談

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|----------------------------|--|--|--|---|
| 5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか | クラス担任制をとることで、学生一人一人に対応できる体制をとる。 | 入学時・進級時に配慮を要す学生からの申し出を受け付け、学校長を中心に対応を検討している。 クラス担任が定期的に個人面談を実施している。朝の SHR 時に学生の様子を観察し、変化が見られれば随時面談を行っている。 | 専門のカウンセラーは配置しているが、教職員のカウンセリングスキルの向上が課題である。 | 配慮を要す学生への対応一覧 教務日誌 スクールカウンセリング報告書 |
| 5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか | 留学生に対する相談体制を整備し、留学生が不安なく学業に専念する環境を整える。 | クラス担任・学科長を中心に個別相談で対応している。また定期的に日本語教員による日本語教育や相談できる時間を設け、留学生の不安を和らげている。日本語学科と介護福祉学科で情報共有の機会を設け、情報共有と指導について助言しあっている。 | 今後予想される留学生の増加に対して学校全体で取り組んでいく必要がある。 | 各学科会議事録 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|
| クラス担任が定期的に個人面談を実施している。朝の SHR 時に学生の様子を観察し、変化が見られれば随時面談を行っている。 留学生に対しては、クラス担任・学科長による個別相談、日本語教員による日本語教育・相談を行い、少しでも不安が解消できるよう取り組んでいる。 | 年度当初に配慮を要す学生への対応について、学校長・教務部長・学科長・担任による検討会を実施しており、共通認識の下、個別적으로かかわりを持っている。 |

最終更新日付

2025年3月31日

記載責任者

山根 真弓

5-19 学生生活

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------------|--|---|--|-----------------|
| 5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか | 経済的な理由で学業をあきらめることがないよう支援体制を整える。 | 学納金の納入は、延納や分納など様々な納入方法で対応している。また、奨学金制度として木村学園奨学金制度、日本学生支援機構、生命保険協会奨学生制度、教育訓練給付制度等があり、その都度説明会を実施している。 | 特になし | 学生便覧 募集要項 |
| 5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか | 学校安全保健法に基づき健康診断を毎年実施する。 | 4月に全学生を対象とした健康診断を実施している。また保健室を設置し、看護師の資格を持った常勤教員が体調不良の学生に対応している。緊急時の対応について、全教職員がフローチャートに基づき行動できるよう情報共有している。 | 緊急時に速やかに対応できるよう、全教職員が毎年救急法を受講できるよう体制を整えているが、都合等で受講できない教職員もおり、今後の課題である。 | 学生便覧 職員会議議事録 |
| 5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか | 学生寮を希望する女子学生に対して、学校が提携している業者の学生アパートを紹介する。男子学生には、学校が提携している業者のアパートを紹介する。 | 学生寮は設置していないが、学校が提携する業者の女子学生アパートを紹介している。男子学生には、学校が提携している業者のアパートを紹介する。 | 特になし | 学生マンション案内パンフレット |
| 5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか | 課外活動を通して、学科を超えて学生間の親睦を深めていくことは重要である。 | 親睦を目的として交流会や球技大会等を企画している。 | 交流会は実施できたが、球技大会は新型コロナウイルス感染症の影響で直前に中止となった。学園祭は地域の方を招いて盛大に開催でき、今後も引き続き開催していく。 | |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|
| <p>経済的な問題を抱えている学生に対しては、学納金の延納・分納および各種奨学金制度の利用を促す。</p> <p>学生の健康管理のため毎年4月に健康診断を実施している。</p> <p>学生寮は設置していないが、学校が提携する業者の女子学生アパートを紹介している。男子学生には、学校が提携している業者のアパートを紹介する。親睦を目的として交流会や球技大会等を企画しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で一部開催できないものもあった。</p> | <p>今年度の学園祭は5年ぶりに制限のない大規模開催となった。同窓会主催のイベントも同時開催し、充実した学生生活を送ることのできる環境となった。</p> <p>木村学園奨学金は本校独自の奨学金制度である。</p> |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

5-20 保護者との連携

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------|--|---|---|-------------------------|
| 5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか | 学校運営を円滑に行うためにも保護者の協力は不可欠である。特に、学習支援・生活指導の面で保護者と綿密に連携をとることは重要である。 | 保護者会を実施し、教員との顔合わせ、本校の教育方針等の説明、個別面談を実施している。また、授業公開も実施し、学科懇談と個別面談の機会を設けている。年に3回学科通信を発行し、写真も交えて学校での様子を伝えている。学習支援・生活指導が必要な学生の保護者に対しては電話で現状報告を行い、家庭での協力を要請している。状況に応じて、来校してもらい4者面談（学生、保護者、担任、学科長）を実施している。 | 保護者会・授業公開と複数の機会を設けることにより、多くの保護者の参加を促しているが、参加のない保護者への情報提供は学科通信に限られる。 | 教務日誌 学科通信 保護者面談記録 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 保護者会・授業公開を実施し、学習支援・生活指導の面で努力が必要な学生の保護者とは綿密に連携をとっている。電話連絡・4者面談を通じて保護者の協力を要請している。 保護者会・授業公開に参加のない学生の保護者との連携体制はそれほどとれていないのが現在の課題である。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

5-21 卒業生・社会人

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---|-------------------------------|---|--------------------------------------|----------------|
| 5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか | 同窓会を通じて卒業生への支援体制に取り組む。 | 同窓会総会を利用して卒業生の相談に応じている。個別に学校に相談に来る卒業生に対しても同様に対応している。同窓会主催のイベントを実施し、同窓会との連携を図っている。 | 同窓会をこれまで以上に活用し、卒業生との連携・支援体制を強めていきたい。 | 同窓会会則 |
| 5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか | 卒業生支援の一環として卒業後教育は大切である。 | 介護福祉学科において、卒業生を含む介護福祉士を対象にした勉強会を実施している。 | 特になし | |
| 5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか | 社会人経験者が修学しやすい環境を整備することは大切である。 | 社会人入学生に対して、社会人奨学生入試を実施している。社会人経験者等に対しては、既修得科目を認定している。また、委託訓練業務として介護福祉学科・こども保育学科に委託訓練生の受け入れを行っている。 | 特になし | 募集要項 学則第26条 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 同窓会総会に出席する卒業生や個別に学校訪問してくれる卒業生に対しては、相談・支援を行っている。同窓会との関係をこれまで以上に密接にし、卒業生との連携を図っていきたい。 また、社会人が入学しやすいような制度・教育環境の整備と、その情報発信に努めていく。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

基準 6 教育環境

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|
| <p>施設・設備・教育用具等は関係法令等の基準を満たすよう整備している。経年劣化している設備は随時更新しているが、開校 27 年が経過し、老朽化が目立っている。中長期的な更新・補修計画を作成し実施していく必要がある。</p> <p>学外実習は、実践的な職業教育を行う専門学校にとって、最も重要な教育課程の一つである。すべての学科で実施要領を作成し適切に運用している。また、実習指導者連絡会や実習先への巡回などで実習指導者との意見交換を行い、学生にとって充実した実習となるよう心掛けている。</p> <p>学生にとって安心安全に教育できる環境は重要である。様々な災害に対する備えとして、本校では自衛消防組織を編成し、火災・防災避難訓練を定期的実施している。今後、避難訓練のシチュエーションを変更し、どのような状況でも確実・安全に避難できるよう訓練を積んでいく。また、実習機器の安全な使用方法や盗難防止のための指導を徹底するなど、学内での安全管理に努力している。万一に備え、災害傷害保険の加入や盗難時対応マニュアルの整備をしている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・校内の施設・設備の改修として 2024 年度 東館すべての照明を LED 化する工事を実施し、エントランスや駐車場等校舎外の照明設備も更新した。 |

| | | | |
|--------|-----------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025 年 3 月 31 日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|-----------------|-------|-------|

6-22 施設・設備等

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--|---------------------------------|---|--|-----------|
| 6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか | 施設・設備・教育用具等は関係法令等の基準を満たすよう整備する。 | 教育上必要な施設・設備は整っている。経年劣化している施設・設備については随時更新している。 | 開校 28 経過し様々な施設・設備が老朽化している。定期点検を徹底するとともに、中長期的な更新・補修計画を作成し実施する必要がある。 | 固定資産台帳 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 施設・設備・教育用具等は関係法令等の基準を満たすよう整備している。経年劣化している施設・設備は随時更新しているが、開校 28 年が経過し、老朽化が目立っている。中長期的な更新・補修計画を作成し実施していく必要がある。 | 2025 年度に LED 化を予定。 |

| | | | |
|--------|-----------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025 年 3 月 31 日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|-----------------|-------|-------|

6-23 学外実習、インターンシップ等

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---|---|--|-----------|---------------|
| 6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか | 実践的な職業教育を行う専門学校にとって、学外実習は最も重要な教育課程の一つである。 | 学外実習においては、すべての学科で実施要領を作成し適切に運用している。また、実習指導者連絡会や実習先への巡回などで実習指導者との意見交換を行い、学生にとって充実した実習となるよう心掛けている。 | 特になし | 学則 各学科実習要綱 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 実践的な職業教育を行う専門学校にとって、学外実習は最も重要な教育課程の一つである。すべての学科で実施要領を作成し適切に運用している。また、実習指導者連絡会や実習先への巡回などで実習指導者との意見交換を行い、学生にとって充実した実習となるよう心掛けている。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

6-24 防災・安全管理

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|------------------------------------|---|---|---------------------------|-----------------|
| 6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか | 自衛消防組織を編成し、火災・防災避難訓練を定期的実施することは重要である。 | 避難訓練や施設設備の安全点検チェックを実施している。 | 様々なシチュエーションを考え、避難訓練を実施する。 | 消防計画 防災マニュアル |
| 6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか | 学内における安全管理体制の整備は、学生及び教職員の安全を守るうえで重要である。 | 学生に対して、様々な実習機器の安全な使用方法を指導するとともに、不慮の事故等に対応するため、全学生が災害傷害保険に加入している。また、盗難防止のため貴重品の管理・教室の施錠等、徹底して指導している。万一、盗難が発生した場合は、盗難時対応マニュアルに従って迅速に対応している。 | 特になし | 盗難時対応マニュアル |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--|
| 自衛消防組織を編成し、火災・防災避難訓練を定期的実施している。今後、様々なシチュエーションを考えて、どのような状況でも確実・安全に避難できるよう訓練を積んでいく。 学生に対して様々な実習機器の安全な使用方法や盗難防止のための指導を徹底している。万一に備え、災害傷害保険の加入や盗難時対応マニュアルの整備をしている。 | 事故・事件が発生した場合は、事件・事故等対応報告書を作成し、全教職員で情報共有している。 |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

基準7 学生の募集と受入れ

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|
| <p>学生募集については、直接高校生と接触できる高校内での進学説明会や会場ガイダンスに積極的に参加している。オープンキャンパスでは、在校生や卒業生の協力を得て、授業の様子や校内での教職員との関係、雰囲気を感じてもらうことを目標に実施している。また、入試説明会、保護者説明会、寮見学、マネープラン相談会も同時に開催している。</p> <p>入学選考についてはAO（総合型選抜）入試を導入し、学力だけではなく本校のアドミッション・ポリシーに該当する者を積極的に受け入れている。</p> <p><本校アドミッション・ポリシー></p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療・福祉・保育の業界に貢献するという夢や目標のある者 ○専門職に求められる専門性と実践力を身に付けようとする熱意と意欲がある者 ○積極的に資格取得に挑戦するという前向きな姿勢を持つ者 ○他人を思いやる心や人の役に立ちたいという気持ち強い者 <p>学納金については、入学金・授業料や在学中に必要な教材等の費用について詳細に提示し学生や保護者に対して情報提供している。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集に関しては、ホームページや学校案内で詳細な情報を提供している。オープンキャンパスや進路説明会ではさらに詳細な情報を提供できるよう工夫し、各種奨学金制度等個別にマネープラン相談にも対応している。 |

最終更新日付

2025年3月31日

記載責任者

國岡 義広

7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------------------|---|--|----------------------------------|------------------------|
| 7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか | 広報担当者を中心に本校の教育内容や募集要項など必要な情報を高等学校等へ提供する。 | 学校案内を提供したり高等学校内での進路説明会に積極的に参加し、情報提供に取り組んでいる。 | 高校への有効な情報提供内容や方法について検討していく必要がある。 | 学校案内 募集要項 ホームページ |
| 7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか | 高等学校の学事日程を勘案して年間の広報イベント、スケジュールを作成し、効果的な学生募集活動を行う。 | オープンキャンパス、学校見学会、高等学校での進路説明会等に積極的に実施・参加している。 | ・高校生への効果的な伝え方をいろいろ工夫する必要がある。 | 学校案内 募集要項 ホームページ |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|
| 高校ガイダンス等で職業理解として仕事の内容については説明できていても、仕事のやりがいや生きがいのある仕事につくことの意味について伝えきれていない。福祉や医療の職種の認知を高めるために様々な取り組みや新たな工夫が必要である。 | ・少子化や就職しやすい環境となる中、入学生の獲得競争が更に激化していくと予想される。 |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

7-26 入学選考

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|-------------------------------------|--------------------------------------|--|--|-----------|
| 7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか | 入学選考基準は募集要項で明確にし、適正かつ公平な合否判定を行う。 | 合否判定会議において、選考基準により公正に選考している。 | 今後も社会のニーズに応じて入試内容や選考基準の改訂を検討していく。入学前に取得している資格について、入学時に考慮する（特待生制度）。 | 募集要項 |
| 7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか | 入学選考に関する結果を把握し、各部署で入学生の学力に合わせた対応をする。 | 学力判断資料に基づき、授業内容の改善や学生指導に活用している。また、入学前課題を行うことにより、入学後スムーズに学習できるよう対策している。 | 学力レベルに応じた個別の支援が必要となる。 | 入試判定会議用資料 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 入学選考については AO（総合型選抜）入試を導入し、学力だけではなく本校のアドミッション・ポリシーに該当する者を積極的に受け入れている。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

7-27 学納金

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------------------|--|--------------------------------------|--------------------------------|-----------|
| 7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか | 教育活動の中で発生する経費内容を把握・確認し、適切な学納金を算出する。 | 経費内容は適正に把握しており、学生への負担は妥当な金額となっている。 | 社会情勢の変化により学納金の金額について、適宜対応していく。 | マネープラン資料 |
| 7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか | 入学までに辞退した者には入学時納入金（入学後の前期授業料対応分）については募集要項に記載の通り返還する。 | 入学辞退者には入学時納入金を返還している。入学金については、返還しない。 | | 募集要項 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 学生や保護者の経済的負担軽減策として特待生試験制度を設けることにより、特に入学前の資金調達負担の軽減につながっている。各種奨学金を受ける学生が多いことから学費の分納・延納ができる制度を設けている。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

基準 8 財務

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|
| <p>少子化による 18 歳人口の減少、好景気による就職市場の活況、大学全入など専門学校の新規募集の厳しさによる収入減、施設設備更新経費の支出増など専門学校の外部環境が悪化する中、財務基盤が安定しているとは言えない状況である。</p> <p>中長期的には留学生の獲得による入学者増（収入増）、更なる経費の削減（支出減）や学科統廃合についても検討していかなければならない。</p> | <ul style="list-style-type: none">・財務基盤を安定させるためには中長期的に安定して入学者数を確保していかなければならない。・支出に関しては無駄な経費を省くため支出面でのチェックを徹底し、コスト管理をすすめていく。 |

最終更新日付

2025 年 3 月 31 日

記載責任者

國岡 義広

8-28 財務基盤

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---|------------------------------|--|-----------------------------------|-----------|
| 8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか | 中長期的な財務基盤の安定を第一に考えて運営する。 | 財務基盤の安定のため学生募集や講習会の実施による収入増を図るとともに、経費削減に一層努力しなければならない。 | 安定的な新入生確保と更なる経費削減に努め財務基盤の安定を図りたい。 | |
| 8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか | 主要な財務数値に関する財務分析を行いその推移を把握する。 | 主要な財務数値を把握し、財務分析を行っている。 | より詳細な財務分析を行う必要がある。 | |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 中長期にわたる財政基盤の安定を図るため、留学生獲得、経費削減に取り組むことにより収益の改善を目指していく。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

8-29 予算・収支計画

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--|------------------------------------|--------------------|-------------------------------|-----------|
| 8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか | 事業計画と教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定する。 | 事業計画に基づき予算を策定している。 | 中期計画の策定と見直しについて体制を整えていく必要がある。 | 消費収支予算書 |
| 8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか | 予算及び事業計画に基づき適切に執行する。 | 予算に基づき適正に執行している。 | 予算管理を徹底していく。 | |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--------------------------------------|--------------------|
| 経営安定のために経費の内容について常に見直しを行い、効率化を図っていく。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

8-30 監査

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--------------------------------------|----------------------|--------------------------|-----------|-----------|
| 8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか | 決算時に監事が会計監査を適切に実施する。 | 監査法人の指導の下、監事による監査を行っている。 | 特になし | 決算報告書 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|----------------------|--------------------|
| 監査については、毎年適正に実施している。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

8-31 財務情報の公開

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---|--------------------------------|--------------------------------------|--------------------|-----------|
| 8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか | 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に公開する。 | 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、ホームページにて公開している | 情報公開の範囲について検討していく。 | 学校ホームページ |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書についてホームページにて公開している。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

基準 9 法令等の遵守

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|
| <p>専門学校の教育に関わる各種法令及び設置基準を遵守し、適切な運営を行っている。</p> <p>個人情報保護については規程を定め学校全体として取り組んでいる。情報漏えいが起きないように書類の管理、パソコン上でのセキュリティ管理に万全を期している。学校内の個人情報が保護されているか、常に点検する必要がある。</p> <p>私立専門学校等評価研究機構の評価基準に従って、自己評価・学校関係者評価を実施し、ホームページにて公表している。自己評価に関しては、一部の教職員による実施に留まっており、今後は多くの教職員が参加できるような体制整備が必要である。</p> <p>学校概要、学科・カリキュラム概要・授業計画書（シラバス）等をホームページで公表している。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・システムのセキュリティ対策として統合脅威管理（UTM）装置を設置し、外部攻撃や内部漏えいなどの様々な脅威から学内ネットワークを守っている。 ・ネット環境の発展に伴い個人情報の管理については規程を定め、教職員はもちろんのこと学生に対しても常に注意喚起するようにしている。 |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--|-------------------------------------|-------------------------|-----------|-------------|
| 9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか | 専門学校の教育に関わる各種法令及び設置基準を遵守し、適切な運営を行う。 | 関係法令を遵守し、適正な学校運営を行っている。 | 特になし | 学則 認可届出書 |

| 点検中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 専門学校の教育に関わる各種法令及び設置基準を遵守し、適切な運営を行っている。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

9-33 個人情報保護

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|------------------------------------|------------------------------|---|--------------------------------|------------------------|
| 9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか | 個人情報保護については規程を定め学校全体として取り組む。 | 情報漏えいが起きないよう書類の管理、パソコン上でのセキュリティ管理に万全を期している。 | 学校内の個人情報が保護されているか、常に点検する必要がある。 | 個人情報保護規程 情報セキュリティ対策 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|
| 個人情報保護については規程を定め学校全体として取り組んでいる。情報漏えいが起きないよう書類の管理、パソコン上でのセキュリティ管理に万全を期している。学校内の個人情報が保護されているか、常に点検する必要がある。 | システムのセキュリティ対策として統合脅威管理（UTM）装置を設置し、外部攻撃や内部漏えいなどの様々な脅威から学内ネットワークを守っている。 |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

9-34 学校評価

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|----------------------------------|---|---|-----------|------------------------------|
| 9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか | 自己評価の実施体制を整備し評価することで、学校として組織的・継続的な改善を図る。 | 自己評価について、学則および学校評価実施規程に定め、自己点検・評価を実施した。 | 特になし | 学則第4条 学校評価実施規程 自己評価報告書 |
| 9-34-2 自己評価結果を公表しているか | 自己評価結果をホームページで公表する。 | 自己評価結果をホームページで公表している。 | 特になし | 学校ホームページ |
| 9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか | 学校関係者評価の実施体制を整備し評価することで、学校として組織的・継続的な改善を図る。 | 学校関係者評価について、学校評価実施規程を定め、学校関係者評価を実施した。 | 特になし | 学校評価実施規程 学校関係者評価報告書 |
| 9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか | 学校関係者評価結果をホームページで公表する。 | 学校関係者評価結果をホームページで公表している。 | 特になし | 学校ホームページ |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 私立専門学校等評価研究機構の評価基準に従って、自己評価・学校関係者評価を実施し、ホームページにて公表している。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

9-35 教育情報の公開

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--------------------------------|-------------------------|--|-----------|-----------|
| 9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか | 教育情報に関する情報をホームページで公表する。 | 学校概要、学科・カリキュラム概要、授業計画書等をホームページで公表している。 | 特になし | 本校ホームページ |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 学校概要、学科・カリキュラム概要、授業計画書等をホームページで公表している。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|

基準 10 社会貢献・地域貢献

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--|
| <p>学校の教育資源を活用した「社会貢献・地域貢献」について、学校を上げて対応していくことは学生にとっても社会性を育む観点からとても重要である。</p> <p>医療と福祉の専門学校であるので、その教育資源である設備や人材を活用するために特に地域との連携を図っていくことが大切である。国際交流については、留学生を通じて機会が増えていくと考えられる。</p> <p>ボランティア活動については、主体的に行動し地域や社会に貢献できる人材となるよう、学生に対して積極的に推奨している。福祉施設や障がい者施設等のボランティア依頼を教員が取りまとめ、学生に紹介するなどして学生と施設等の仲介役をしている。</p> | <p>・ボランティア活動の依頼件数は回復しつつあり、学生も積極的に参加している。</p> |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 國岡 義広 |
|--------|------------|-------|-------|

10-36 社会貢献・地域貢献

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--------------------------------------|---|---|-----------------------|-----------|
| 10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 医療と福祉の専門学校である特色を生かして地域社会との連携を意識した活動を行う。 | こども保育学科は毎年近隣保育園から園児を招き、発表会を行い、交流を深めている。 | | |
| 10-36-2 国際交流に取り組んでいるか | 留学生を通じて友好協会等と連携することにより交流を深めることが大切である。 | 留学生郊外授業において、地域交流を深めている。 | 今後も更なる交流の機会を増やしていきたい。 | |

| 点検中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 学校の教育資源を活用し地域との交流を深め、学園の存在を認知してもらい更に地域の一員として貢献していきたい。国際交流については、行政や友好協会等との連携を深めていくことにより取り組みを増やしていく。 | |

10-37 ボランティア活動

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---|---|---|-------------------------------------|-----------|
| 10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか | ボランティア活動は、本校の教育理念である愛と奉仕の精神のもと、主体的に行動し、地域や社会に貢献できる人材を育成する上で、非常に重要である。 | 福祉施設や障がい者施設等からのボランティアの依頼を教員が取りまとめ、積極的に学生に紹介している。 介護福祉学科学生のボランティア活動実績は次のとおりである。 ・ボランティア実施件数 1年生…一人あたり年に4回以上 ・2年生…一人あたり年に3.9回 | 介護福祉学科以外でのボランティアの取り組みの広がりが今後の課題である。 | ボランティア活動表 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|------------------------------------|
| 愛と奉仕の精神を身に付け、主体的に行動し地域や社会に貢献できる人材となるよう、学生のボランティア活動を積極的に推奨している。福祉施設や障がい者施設等のボランティア依頼を教員が取りまとめ、学生に紹介するなどして学生と施設等の仲介役をしている。 | ボランティア活動の依頼件数は増えており、学生も積極的に参加している。 |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2025年3月31日 | 記載責任者 | 山根 真弓 |
|--------|------------|-------|-------|